

平成22年度（第54回）
岩手県教育研究発表会資料

情報教育

中学校道徳における情報モラル指導に関する研究

－疑似体験を取り入れた授業展開例の作成をととして－

《研究協力校》

紫波町立紫波第一中学校

《研究協力員》

盛岡市立見前南中学校	教諭	三橋	弥生
矢巾町立矢巾北中学校	教諭	松村	摂子
花巻市立矢沢中学校	教諭	藤原	信彦

平成22年2月18日
岩手県立総合教育センター
情報教育担当
谷 木 啓 恭
奥 田 昌 夫
石 川 修 司
三 田 正 己
平 賀 弘 典
小 野 寺 秀 樹
廣 瀬 謙 三
教科領域教育担当
吉 田 竜 二 郎

【空白のページ】

《目次》

I	研究の目的	1
II	研究の内容と方法	1
1	研究の目標	1
2	研究の内容と方法	1
3	授業実践の対象	2
III	研究結果の分析と考察	2
1	中学校道徳における情報モラル指導に関する基本構想	2
(1)	中学校道徳における情報モラル指導についての基本的な考え方	2
(2)	疑似体験を学習活動に取り入れる意義	3
(3)	道徳の時間における情報モラル指導	3
(4)	中学校道徳における情報モラル指導に関する基本構想図	4
2	中学校道徳における情報モラル指導のための教材作成	5
(1)	中学校道徳における情報モラル指導の教材作成に関する基本的な考え方	5
(2)	中学校道徳における情報モラル指導の教材作成	5
3	生徒の発達段階に応じた情報モラルについて	5
4	中学校道徳における情報モラル指導のための指導展開例と別葉の作成	5
5	授業計画と検証計画の立案	5
(1)	授業計画	5
(2)	検証計画	5
6	研究協力校における授業実践	6
7	実践結果の分析と考察	9
(1)	道徳的価値について	9
(2)	情報モラルについて	9
(3)	教材について	10
8	中学校道徳における情報モラル指導に関するまとめ	12
(1)	成果	12
(2)	課題	12
IV	研究のまとめと今後の課題	13
1	研究の成果	12
2	今後の課題	12
	<おわりに>	13
	【参考文献】	13

I 研究の目的

社会の情報化が進展し、コンピュータや携帯電話が普及することにより、情報の収集や表現、発信が容易にできるようになる一方で、情報化の影の部分への対応も急務になっている。新しい中学校学習指導要領解説―道徳編―では、生徒の発達段階や特性などに配慮し、道徳の内容との関連をふまえて情報モラルに関する指導に留意することが示されている。

しかし、ネット上の書き込みによりすれ違いが生じてしまうこと、情報を利用するときには法やきまりを守らなければいけないこと、匿名性に伴って使い方によっては相手を傷つけてしまうことなどについて、生徒の生活体験の中の情報モラルにかかわる体験を想起させたり、考えを深めさせたりする道徳の教材が少ない状況にある。

これを改善していくためには、相手の顔が見えない時のコミュニケーションのとりかたや、インターネット上の書き込みが相手に与える影響について考えさせるなど、インターネットの特性に起因する心のすれ違いなどを取り上げた題材が必要である。また、ネット上の法やきまりを守れずに引き起こされた出来事などを実際に体験して授業を進めることも効果的である。このような学習経験をとoshi、他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて生徒が考えを深めることができるように働きかけるための教材を開発し、それに伴った展開例を作成して道徳指導に取り入れる必要がある。

この研究は、中学校道徳における他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて生徒に考えを深めさせるための教材を開発し、展開例を作成することにより道徳指導の改善に役立てようとするものである。

II 研究の内容と方法

1 研究の目標

中学校道徳における情報モラル指導に関する考え方を明らかにし、生徒の発達段階に即した教材を作成し、それに伴った授業展開例を作成する。さらに、作成した教材や展開例を用いて授業実践及び実践結果の分析と考察を行うことにより、道徳の時間の改善に役立てる。

2 研究の内容と方法

- (1) 中学校道徳における情報モラル指導に関する基本構想の立案（文献法）
情報モラル指導に関する基本的な考えをまとめ、基本構想を立案する。
- (2) 中学校道徳における情報モラル指導のための教材作成（文献法・開発法）
基本構想に基づき、中学校道徳の情報モラル指導に関する教材を作成する。
- (3) 中学校道徳における情報モラル指導の実際（文献法・開発法）
基本構想に基づき、作成した教材に即した指導展開例を作成する。
- (4) 授業計画と検証計画の立案（文献法・開発法）
基本構想に基づき、開発した教材や展開例を用いた授業計画及び検証計画を立案する。
- (5) 中学校道徳における情報モラル指導に関する授業実践（授業実践）
授業計画に基づき、作成した教材及び展開例を用いた授業実践を行う。
- (6) 実践結果の分析と考察（質問紙法）
検証結果に基づき、授業実践結果を分析することにより、作成した教材及び展開例を修正する。
- (7) 研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づき、道徳における情報モラル指導に関する研究についてまとめる。

3 授業実践の対象

研究協力校

紫波町立紫波第一中学校

Ⅲ 研究結果の分析と考察

1 中学校道徳における情報モラル指導に関する基本構想

(1) 中学校道徳における情報モラル指導についての基本的な考え方

ア 中学校学習指導要領「道徳教育」

学習指導要領では、「道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成するものとする。」と記されている。これは、道徳の時間だけの学習にとどまることなく、学校教育全般において関連づけ指導することを示している。さらに、学校の諸活動で道徳的価値について感じたり考えたりすることが必要になる。道徳の時間は、道徳的価値に近づけることによって、人間としての在り方や生き方という視点からとらえなおし、自分のものとして発展させていこうとする時間になる。人間としての在り方や生き方を学ぶためには、学校教育全般や道徳の時間において、計画的、発展的な指導によって道徳的価値を補充、深化、統合していくものである。

また、道徳では今日的課題として、各校種において情報モラル指導が位置づけられている。小中学校では、学校教育全体で取り組むべきものであるが、道徳の時間においても情報モラルに関する指導に配慮しなくてはならないと示されている。道徳の内容と情報モラル等関連付けるならば、ネット上の心のすれ違いなど他者への思いやりや礼儀の問題及び友人関係の問題、情報を生かすときの法やきまりの遵守に伴う問題など多岐にわたっている、と中学校学習指導要領解説道徳編にあげられている。

イ 情報モラル指導

「情報モラル指導者研修ハンドブック」（2010年1月文部科学省・財団法人コンピュータ教育開発センター）には、情報モラル指導に二つの領域があり、「知恵を磨く」領域と、「心を磨く」領域があるとされている。「知恵を磨く」領域では、安全への知恵や情報セキュリティ、「心を磨く」領域では、情報社会の倫理や法の理解や遵守、共通の項目として公共的なネットワーク社会の構築の5分野から構成されている。情報モラルではその5分野をバランスよく備えた生徒を、情報機器を適正に使用できる状態と考える。

本県で開発した教材「情報サイト」を用いて情報モラルを指導する際、インターネット上でやってはいけないことや注意することなど、主に「知恵を磨く」領域の指導を多くおこなってきた。安全な使い方、危険回避などに重点を置き指導してきた。しかし、掲示板やメールへの書き込みでは、相手を思いやった言動について深く指導できなかった。本研究においては、「心を磨く」領域に焦点をあて、教材や展開例を作成していく。

ウ 中学校道徳における情報モラル指導

「心を磨く」領域を育てるためには、道徳での役割が重要になる。指導要領解説道徳編には、道徳を指導する場合四つの内容項目がある。「主として自分自身に関すること」、「主として他の人とののかかわりに関すること」、「主として自然

や崇高なものとのかわりに関すること」，「主として集団や社会とのかわりに関すること」である。情報モラル指導をする場合に必要となるのが，インターネット上のサービスが挙げられる。掲示板やチャット，ブログ，メール，プロフ，ホームページなどがある。これらは主に特定した相手や不特定多数に発信する行為である。それを，道德の四つの内容項目と照らし合わせた場合，「主として他の人とのかわりに関すること」にあてはまる。本研究においては，「主として他の人とのかわりに関すること」を中心に教材開発や指導展開例の作成を行っていく。

道德教育における情報モラル指導では，通常の道德の時間と同様に道德的価値観の形成を図らなくてはならない。インターネット上のサービスを利用する場合，コンピュータの向こう側に人がいる。掲示板やチャット，ブログ，メール，プロフ，ホームページ，どれをとっても投稿者，作成者，送信者，閲覧者などがある。生徒の実態をよく考えると，ネットワークの知識が少ないだけではなく，ネットワークの向こう側にいる相手が少ないことも考えられる。さらに，インターネット上のサービスを利用する場合，匿名性を使って誹謗中傷やなりすましといった形で相手を傷つけてしまうことも同様にある。相手を思いやる心や互いに高め合う，よりよい社会の実現など，道德的価値観の形成を図っていく必要がある。道德的価値観を形成するために，道德の時間における情報モラルに関する指導では，インターネット上のサービスを題材として，道德的価値へ近づけるための研究をおこなっていく。

(2) 疑似体験を学習活動に取り入れる意義

「情報モラル指導者研修ハンドブック」では、『実際に児童生徒がそれぞれのコンピュータを用いてメールを送り合ったり，掲示板に書き込んだりする「コミュニケーション実習」などを取り入れたりすることも効果的です。』と書かれている。また，学習指導要領解説道德編では，情報機器のある環境を生かして指導に留意することも求められている。実際に道德の時間にコンピュータ室で授業を行うことも十分に考えられる。

本研究において疑似体験とは，安全な環境で擬似的にインターネット上のトラブルを体験することと定める。それにより，正しい対処法を実践的に身につけることができるものとする。さらに，道德の時間においてコンピュータ室を利用する場合，LANを用いて教師が情報を提供したり，生徒同士が情報を共有したり，自分の考えを表現する活動ができると考える。

(3) 道德の時間における情報モラル指導

ア 読み物資料で行う指導

道德で情報モラル指導をおこなう場合，教室での授業が中心となる。この場合読み物資料を用いて，道德的価値へ近づけることをねらいとする。道德の目標にもあったように，補充，深化，統合をめざさなければならない。これは，情報モラルの指導でも同じように，「自分はこれからこうしたいと行動につなげていけるように，考えをまとめ，態度として表させる」（2010年1月情報モラル指導者研修ハンドブック）ことが重要になってくる。道德教育では他教科との関連をふまえ，「心を磨く」領域と「知恵を磨く」領域を育てていくことが必要になる。

さらに，情報モラル指導では，「立場による違いがあること」や「情報やメディアの特性」も考慮しなくてはならないことも学習指導要領解説道德編に書かれている。

本研究において読み物資料を用いて道德の授業を行う場合，道德的価値に近づ

けていくことを目指している。

イ 疑似体験を取り入れた指導

基本的には、前項読み物資料で行う指導と同じように、道徳的価値へ近づけることをねらいとし、補充、深化、統合をめざす。しかし、インターネットへ接続できる端末は、携帯電話やスマートフォン、パソコンなど個人で使う環境が多い。それらを実際に用いた授業というのは難しい。そこで、当センターで開発した「情報サイト」や「スタモバ」を活用する。活用の目的としては、資料の提示や情報の共有、自分の考えを表現するために使用する。留意する点として、コンピュータの操作を教えるための時間ではなく、道徳の時間を円滑に進めるためのツールとして使用することがあげられる。

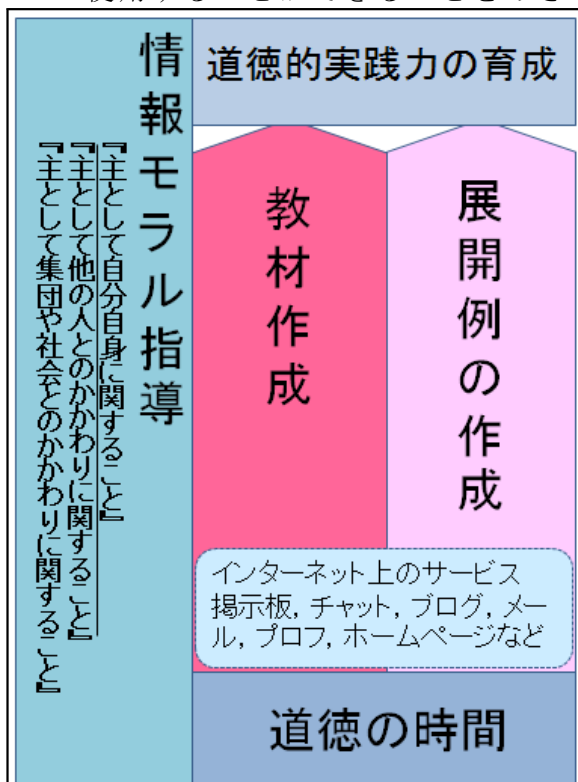
ウ 道徳の時間における情報モラル指導

学校で一般に使用されている副読本の情報モラルに係る資料は年間35時間中、平均1時間程度である。内容については、メールやブログ、健康被害と幅広い。本研究においては、インターネット上のサービスを題材として取り上げ、道徳的価値に近づけることを目的とする。しかし、年間に数時間情報モラルに関する指導を行ったとしても、総合的に道徳性を養うことは難しい。内容項目を計画的にバランスよく指導する必要がある。作成した題材を通して道徳的価値へ近づけ、道徳指導の改善に役立てる。そして、道徳的価値に近づいた生徒は「心を磨く」領域を高めることができた状態になる。

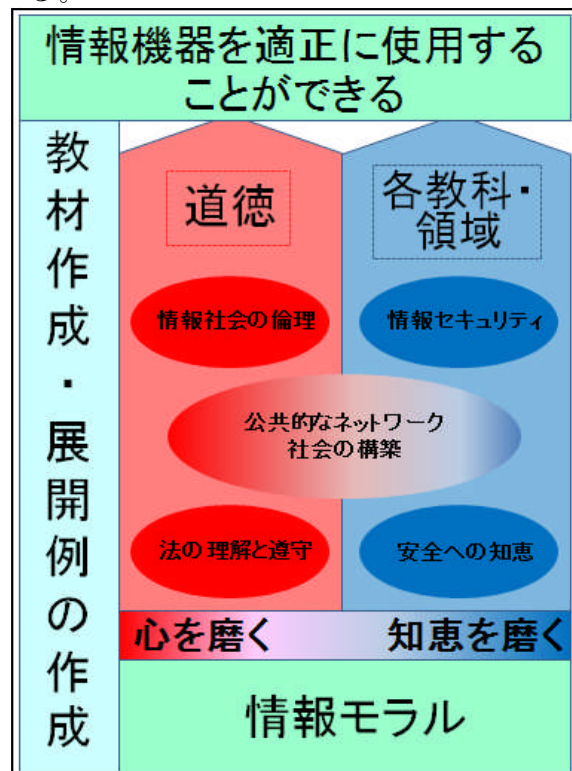
(4) 中学校道徳における情報モラル指導に関する基本構想図

これらの基本的な考え方に基づき、中学校道徳における情報モラル指導に関する基本構想図を【図1】と【図2】に示す。

【図1】は、道徳の時間において情報モラル指導を行う場合の方向性、めざす姿は道徳的価値に近づけることを目標とする。【図2】は、情報モラルにおいて「心を磨く」領域の育成、めざす姿は「知恵を磨く」領域を含めた、情報機器を適正に使用することができることをめざしている。



【図1】道徳に関する基本構想図



【図2】情報モラルに関する基本構想図

2 中学校道徳における情報モラル指導のための教材作成

(1) 中学校道徳における情報モラル指導の教材作成に関する基本的な考え方

指導要領解説道徳編には、内容項目「主として他の人とのかかわりに関すること」を指導する場合以下の六つが指導の観点としてあげられる。

ア 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。

イ 温かい人間愛の精神を深め、他の人に対し思いやりの心をもつ。

ウ 友情の尊さを理解して心から信頼できる友だちをもち、互いに励まし合い、高め合う。

エ 男女は互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。

オ それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。

カ 多くの善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。

これら六つの指導の観点を中心に道徳の価値項目に取り入れ教材を作成する。

(2) 中学校道徳における情報モラル指導の教材作成

(1)で書き示した指導の観点の他に、中学校学習指導要領解説道徳編では、「思春期の特性を考慮し、社会との関わりを踏まえ人間としての生き方を見つめさせる指導を充実する。」と書かれている。教材作成にあたっては、思春期の特性を理解し、人間としての生き方を見つめさせる教材を作成していきたい。

また、「主として他の人とのかかわりに関すること」の視点と情報モラルを照らし合わせたときに、掲示板やチャット、ブログ、メール、プロフ、ホームページなどの教材が必要になってくる。インターネット上のサービスと生徒の実態を考慮した教材を作成することが必要になる。

3 生徒の発達段階に応じた情報モラル指導について

教材を作成するにあたっては、指導の基本となる学年を明示していく。しかし、情報モラルの特性上、生徒がどんな情報機器を活用しインターネット上のサービスに対して興味をもっているのか明確にするのは難しい。また、日々進歩を遂げている機器やサービスなどに、すべてに対応することは難しい。指導にあたっては、生徒の実態を踏まえ、教材を選択し道徳の指導に用いることも考えていかなければならない。

4 中学校道徳における情報モラル指導のための指導展開例と別葉の作成

作成した教材をもとに道徳指導の主題やねらい、展開などを明示した指導展開例を作成する。さらに、指導展開例を簡略化した別葉を作成する。別葉は、主題、内容項目、資料名、ねらい、主題構成の理由、展開の概要で構成する。

5 授業計画と検証計画の立案

(1) 授業計画

開発した教材を用いた授業実践に当たり次のような視点で計画した。

ア 研究協力校における授業実践では、開発した教材を利用して「メール」について実践を行う。

イ 研究協力員においては、開発した教材について道徳的価値や指導展開例について改善するための意見をいただく。

(2) 検証計画

検証計画の内容を次頁【表1】のとおりとする。

道徳の授業において数値的な評価という考え方はそぐわない。しかし、生徒がどのくらい道徳的価値に迫ることができたか調べることは可能である。

【表 1】 検証計画

検証内容	処理・解釈の方法	検証基準
道徳的価値に近づくことについて 情報モラルについて	授業後、アンケートの記述内容により分析・考察をおこなう	①主人公に託して自己を語るができる ②情報機器を適正に使用するよう心がけていることがわかる
教材について	生徒用アンケートの記述内容について分析・考察をおこなう	①資料の「読みやすさ」について 肯定的な意見と否定的な意見に分類する ②資料の「わかりやすさ」について 肯定的な意見と否定的な意見に分類する
	教師用アンケートの記述内容について分析・考察をおこなう	①授業後の感想について 記述された内容をもとに資料の改善をおこなう ②資料について感想や意見、改善内容について 記述された内容をもとに資料の改善をおこなう

6 研究協力校における授業実践

(1) 授業実践（「秘密にしたかったのに」メール）

ア 期日と対象（研究協力校）

平成22年11月16日（火） 紫波町立紫波第一中学校 第一学年・第三学年

イ 概要

(ア) 主題名 信頼できる友達【2-(3)互いに励まし合い、高め合う】

(イ) 資料名 秘密にしたかったのに（メール）

(ウ) 読み物資料【資料1】と本時の流れ【資料2】

ウ 授業について

読み物資料と本時の流れを中心に、研究授業を1年生と3年生それぞれクラスずつ、各担任の先生に実施して頂いた。

その他のクラス、1年生6クラスと3年生5クラスでも同様に授業実施して頂いた。

【資料1】読み物資料

秘密にしたかったのに（メール）

今週は、理科室掃除当番。みんな早く部活動に行きたいから、誰もゴミ収集所へ持っていかない。しかたなく、今日もわたしがゴミ収集所へ運んだ。もどつてくると、もうみんなはいない。一人寂しく理科室の鍵を職員室に返して部活動に行った。

次の日の掃除の時、
《今日もわたしがゴミ捨てに行くのか…》

と、考えていたとき、

「今日は、ボクが運ぶよ。」

同じ班のヤスシ君は、そう言ってゴミ箱をゴミ収集所まで持って行ってしまった。いつもわたしが運んでいたのに……。みんないなくなってしまった教室で、窓を閉めながら、ヤスシ君が戻ってくるのを待っていた。

《なんてお礼を言おう。》

でも、昨日までわたしがしていたことだから、お礼を言うのは変かな。

「あれ、なにしているの？」ヤスシ君はそう言いながらゴミ箱を置いた。

「ありがとう。いつもわたしがしていたのに。」

「明日から順番にするように、みんなに話すよ。鍵を閉めるよ。」

ヤスシ君はそう言って、わたしがいつも返していた理科室の鍵を持って職員室に行ってしまった。

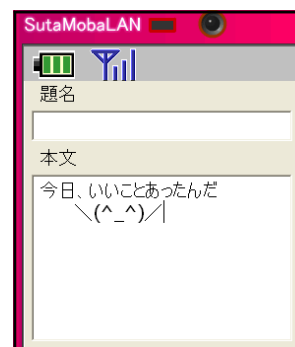
後ろ姿を見送りながら、ヤスシ君がちょっといい人に思えてきた。

『今日、いいことあったんだ＼(^_^)／』となりのクラスのアツコに、家に帰ってからメールを出した。

『何があったの？おしえてβ』

『ヤスシくんっていい人(^o^)]

わたしは、今日の掃除時間のことをアツコにメールで説明した。



次の日、教室に入ると2人の友人から声をかけられた。

「いいと思うよ、ヤスシ君って。」

「応援するよ。」

えっ？どうして知っているの。

わたしは顔が赤くなっていくのがわかった。

《もしかして、アツコがわたしのメールを他の人に送ったの？信じられない。》

となりのクラスに駆け込んで、アツコの座っている机の前で大きな声で言ってしまった。

「どうして他の人に教えたの？」

「あれ、転送しちゃダメだったの？」

大声で言い合うわたしたちを、となりのクラスの人たちが不思議そうに見ていた……。

わたしは気持ちが沈んだまま家に帰った。

「ただいま。」

「おかえり。何落ち込んでるの？」

母に今日の出来事を話した。

「でも、あなたも悪いんじゃない。誰にも言わないでね、とは言っていないわよね。」

「だけど大切なメールを他の人に送るなんて失礼じゃん。」

「大切なことを伝えなければ、実際に話をしたほうがよかったのかもね。アツコちゃんだって、悪気があったわけではないと思うよ。」

「…」

わたしは部屋へ行き、母の言葉を思い出しながらしばらく考えた。

《アツコに悪いことしたなー》

わたしは、ケータイを取り出しアツコにメールをした。

【資料2】本時の流れ

時間	学習活動と主な発問	予想される生徒の意識	具体的支援
導入 5分	1 メールを使った体験を想起させる。 ○メールを使っている、いやな思いをしたことがありますか。	・友達とのけんか ・迷惑メール ・チェーンメール	・学習プリントに記入する。 ・机間指導をして、挙手により確認する。
展開 40分	2 「秘密にしたかったのに」を読んで、主人公の気持ちを考える。 ○ヤスシ君の後ろ姿を見送ったわたしは、どんな気持ちだったでしょう。 ○わたしは、どうして掃除時間のできごとをアツコにメールしたのでしょうか。 ○わたしは、メールを転送したアツコをどう思いましたか。 ○母の話聞いてわたしは何を考えたのでしょうか。 3 主人公にかわって、アツコへ送るメールの文章を考える。 ○「わたし」は、アツコにどんなメールを送ったのでしょうか。	・やさしい。 ・リーダー性がある。 ・ヤスシ君の優しさを伝えたかった。 ・うれしさを分かち合いたい。 ・転送するなんてひどい。 ・うらぎりだ。 ・わたしも間違っていたのかな。 ・アツコが悪い。 ・アツコ今日はごめん。ヤスシ君は、掃除の時間とても誠実そうに見えて、それがうれしかったの。それをアツコに伝えたくて…	※必要に応じて学習プリントを活用する。 ・机間指導をして、書けない子にはサポートをする。 △自己を表出させることができる。 △わたし自身も考え直さなければいけないことを書くことができる。

終 末 5 分	4 授業の感想を書く。 ○今日の授業の感想を書きま しょう。	・感想を書き，発表す る。	・机間指導をして， 書けない子にはサポ ートをする。
------------------	--------------------------------------	------------------	----------------------------------

7 実践結果の分析と考察

(1) 道徳的価値について

資料の後段で「わたし」が「アツコ」に対してメールを送って終わっている。授業をとおして「わたし」の気持ちの変容を考え，最後に主人公に託して自己を語る場面を設定した。自己を語る事ができた生徒は道徳的価値に近づいたものと考え。

【図2】の「備わった」状態と

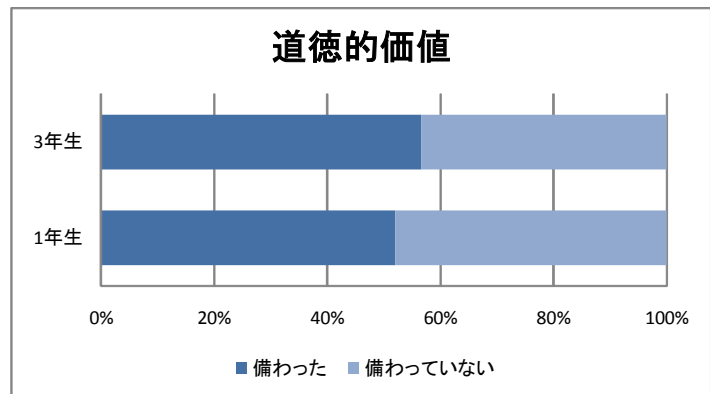
は，授業後半部分で自省し，文【図2】道徳的価値

章に表す事ができたことを示している。つまり，道徳的価値に近づいたものと考え。「備わっていない」状態とは，自省できない，もしくは自省できたとしても文章に表す事ができなかったことを示している。

主人公「わたし」が今思っている友達「アツコ」に対する気持ちと，今後のメールの使い方に対する自分の考えを書き表す事ができた。状況「主人公に託して自己を語る事ができる」事ができた生徒は1年生119人（52.0%），3年生124人（56.6%）とどちらの学年も全体の半数が道徳的価値に近づいたものと考えられる。そして，道徳的価値に近づく事ができなかった生徒の多くは，「ごめんなさい」などの一語で済ませている場合が多い。それらの生徒は道徳的価値が備わっていない場合だけではなく，文章として表現することが難しい生徒も含まれていると思う。また，友達「アツコ」が許せないや信じられないというような生徒も少数いた。これらの生徒は，何らかの理由で単位時間内で道徳的価値に近づく事ができなかったものと考え。

(2) 情報モラルについて

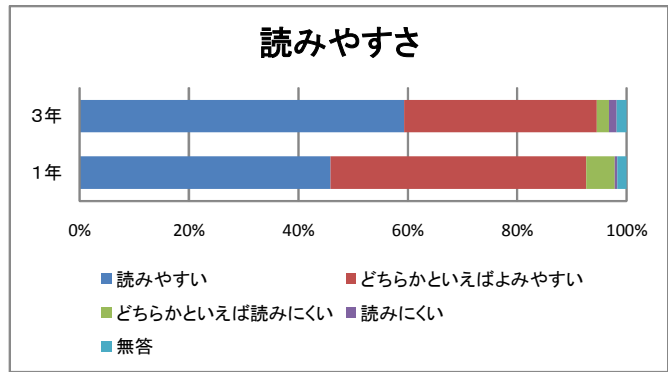
道徳における情報モラル指導では，道徳的価値に近づいた生徒は「心を磨く」領域を高める事ができた状態と考え，本資料「秘密にしたかったのに」においては情報社会の倫理の分野と関連する。授業後のアンケートで，「メールによるトラブルをさけるために，どのようなことを気をつけたらよいと思いますか」では，道徳的な内容「相手の気持ちを考えてメールする」だけではなく，情報モラルに関する内容「大切なことは，メールより言葉で伝える」や「メールの内容はよく考えて送る」，「メールは相手に表情が伝わらないので，言葉足らずにならないように気をつけたい」等があげられた。これは，今までの読み物資料ではつける事ができない価値である。価値項目に照らし合わせたインターネット上のサービスを題材として取り上げる事により，道徳的価値に近づけ，「心を磨く領域」を高める事ができたと考え。



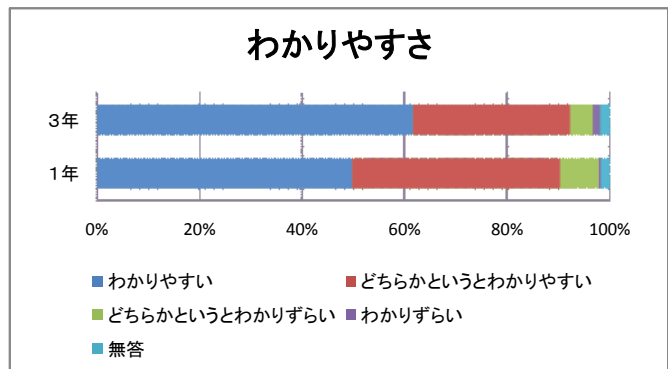
(3) 教材について

資料の「読みやすさ」を生徒にアンケートをとったところ、肯定的な感想は1年生93%，3年生94%の数字になっている。同様に「わかりやすさ」のアンケートにおいては，1年生91%，3年生93%になっている。

「読みやすさ」が肯定的に高い理由は，学校が舞台になっていることや日常的な生活の中の一部として，生徒たちに親しみやすいものになっていると考える。「わかりやすさ」が肯定的に高い理由としては，「読みやすさ」と同様に日常的な生活の中の一部であったり，親しみやすかったりする部分が挙げられる。さらに，携帯電話の所持率は決して高くはないが，パソコンやゲーム機，父母の携帯電話を借りてメールを行った経験



【図3】読みやすさ



【図4】わかりやすさ

があることが理由として考えられる。どちらの項目もわずかに3年生で数字が高いのは，1年生よりもメールに触れる機会や，携帯電話の所持率の高さが影響していると考えられる。

さらに，研究協力校では，研究授業1年，3年各1クラスの他に，他のクラスでも資料「秘密にしたかったのに」の道徳の授業を行っていただき，授業をしてみたの感想と資料についての感想や意見，改善点等のアンケートに記入していただいた。それが【表2】と【表3】に示すとおりである。下線（実線）は，資料についての肯定的な意見を表しているものと，下線（破線）は，資料の問題点や改善点等としてとらえた。

生徒へのアンケートと同様に担任の立場から見ても生徒たちは興味・関心をもって取り組むことができているという感想をいただいた。また，相手の立場に立って考えることやメールはトラブルのもとになりやすいので直接話したいなど，道徳的な側面へ少なからず近づくことができたと考える。さらに，生徒の実態をつかめるとともに，これからの生徒のトラブルを未然に防ぐためにも有効との意見も挙げた。これは「知恵を磨く領域」かもしれないが，道徳の時間に情報モラル指導をおこなうことの必要性とを感じる。主人公の行動を考え内省する。そのことにより，自分自身が情報機器を活用するときどのように対応したらいいか，考え判断するための材料となる。まさに，「心を磨く領域」に値すると思う。

その反面，生徒はお母さんの意見にひっぱられがち，メールを転送されたことに，なぜ腹が立つのかの背景がうすい，との感想をいただいた。今後資料を改善する方向性として，資料について感想や意見，改善内容などを含め検討していきたい。

【表 2】先生方の感想（授業）

1 年生担任

- ・情報モラルは道德ではなく他の機会の方が良いと感じた。
- ・メールを利用している生徒が少数であり、実体験というか、自分のものとしてとらえることはむずかしいと思ったが、メールに限らず、人間関係という点ではよくある話なので、生徒たちのくいつきはよかったと思う。
- ・メールを利用する上での最低限のルールだけではなく、人として相手の立場になって考えることや、やってはいけないことなど、考えさせるきっかけとなる資料だった。
- ・生徒の感想から 2 - (3) の価値に達したかどうかはわからないところがある。
- ・この資料の価値とされている友達関係を築いていくということにせまれず、メールの使い方に気をつけようという部分が強調された授業となってしまった。
- ・メールの使用が少ないので、実際の手紙交換や友達との会話の在り方へと題材を変えて「共によりよく生活しようとする態度」にせまってみた。メールはトラブルのもとになりやすい面もあるから直接話をして伝えたいという意見が多く出た。

3 年生担任

- ・身近な題材だったので、生徒は興味・関心をもって考えていた。ただ、「母親の言葉により、自分も悪いという考えに至る」という流れだったが、そこで生徒たちは「転送する方がおかしい」という意見とのせめぎ合いにあっていた様子だった。
- ・メールを使っている生徒も、そうでない生徒も、話題が身近に感じられることもあり、関心をもって臨んだ。
- ・教材文があまりにも展開ができすぎていて、生徒はお母さんの意見にひっぱられるがちでした。
- ・メールを転送されたことに、なぜ腹が立つのかの背景がうすいため、わたしに共感できにくいと思います。
- ・大変勉強になった授業でした。生徒の実態をつかめるとともに、これからの生徒のトラブルを未然に防ぐためにも有効だと思いました。
- ・日常的に携帯電話やメールの使い方を指導してきたため、生徒はメールについて素直に発言しずらそうであった。
- ・価値観の違いまで深められなかった。メールのメリット、デメリットからもっと切り込みたかった。しかし、道德と学活の違いがあるため難しい。深く考えさせることができなかったことが残念である。
- ・教科書にあるような題材よりは生徒の生活に近く、実感がわきやすいと思った。その結果として、生徒も書きやすいと感じている生徒が多かったように思う。
- ・とてもやりにくかった。(教師)でも、でも生徒は素直に考えてくれた。
- ・メールが身近な生徒はピンときたようだった。

【表 3】先生方の感想（資料について感想や意見、改善内容など）

1 年生担任

- ・内容が把握しやすく人間関係において、よく起こる場面なので題材としてはよいと思う。メールに対する価値観に限らず、いろいろなことに対する価値観の個人による違いをはっきりさせるのには適していると思う。
- ・主人公の「わたし」を中心として授業を展開したが、友人の「アツコ」について（転送したことについて）も考えさせれば、また違う意見も出てきたのかなと感じた。
- ・授業のねらいを、メールの使い方にするのか、友人関係づくりにするのかが明確に

しづらいところがあった。

・最後のメールで話しかけるのだが、お詫びの気持ちというのを伝えるのであれば、メールという手段は不自然に感じます。

・アツコに非がなかったのか考えさせるように「悪いことしたなあ」という部分はないほうがよい。今回、この資料で情報モラル→メールを考えさせてみる場面も設定させてもらった。

3年生担任

・子どもの会話の中ではよくあることかもしれないが、大人である母親が「誰にも言わないでね」とは言わなかったことを娘に話して諭すくだりには不自然さを感じた。誰にも言わないでねと言ったところで、それは守られないのが常なのだから親がそのようなことを言うのはおかしいと思った。

・「アツコに悪いことしたな-」とメールして済む話ではないと思う。

・導入の工夫が必要と思います。いやな思いはなかなか話せないものですし、もしも、メールトラブルでは当事者が同じ学級にいればなおさらだと思います。

・指導案では、学習シートの「2自分の考えを書きましょう」の活用がないので、必要に応じてよりは、ねらって使用させた方がいいかもしれません。

・中学生にとっては、教科書の資料よりも身近な資料に感じていたようだ。ただ、ストーリー的には変化が激しく、もっと前後のストーリーがあった方が不自然さがぬけると思います。(母の言動も変えたい、普段からメールでやりとりしている様子など)

・今の生徒には共感できる内容であり、よくある問題点としてとらえることができたようだ。内容的には、もう少し考えさせる場がほしかった。葛藤場面が少なく、みんなが同じ意見、感想をもっていた。心にゆさぶりをかける内容に期待したい。

・身近な題材なので考えやすいが、質問の項目がちょっと多かった感じがした。また、題材の着地点をどうすればよいのかわからず、勝手にまとめてしまった。

・母親の発言も不自然。「誰にも言わないで〜」とは言わないのではないか。

・「わたし」もすぐに謝るだろうか。

・資料がわかりにくい。

8 中学校道徳における情報モラル指導に関するまとめ

(1) 成果

ア 研究協力校で授業実践を通すことにより、道徳的価値に近づけることと、「心を磨く領域」を高めることができた。

イ 中学校道徳における情報モラル指導において、道徳性を養うための方向性を見いだすことができ、教材及び指導案を作成し改善することができた。

(2) 課題

ア 研究協力校や研究協力員の先生方から頂いた意見を集約し、「秘密にしたかったのに」を改編し、さらに使いやすいものにする。

イ 生徒たちが直面するインターネット上の他のサービスを題材とした読み物教材を充実させる。

IV 研究のまとめと今後の課題

1 研究の成果

(1) 中学校道徳における情報モラル指導に関する基本構想の立案

情報モラル指導に関する基本的な考えをまとめ、基本構想を立案することができた。

(2) 中学校道徳における情報モラル指導のための教材作成

基本構想に基づき，中学校道徳の情報モラル指導に関する教材を作成することができた。

(3) 中学校道徳における情報モラル指導の実際

基本構想に基づき，作成した教材に即した指導展開例を作成することができた。

(4) 授業計画と検証計画の立案

基本構想に基づき，開発した教材や展開例を用いた授業計画及び検証計画を立案することができた。

(5) 中学校道徳における情報モラル指導に関する授業実践

授業計画に基づき，作成した教材及び展開例を用いた授業実践を行うことができた。

(6) 実践結果の分析と考察

検証結果に基づき，授業実践を分析することにより，作成した教材及び展開例の改善する方向性を見出すことができた。

2 今後の課題

(1) 読み物教材及び指導展開例の内容を精査し，普及に向けて完成度を高める。

(2) 道徳の授業において，情報サイトやスタモバLANを活用した事例を増やし，情報モラル授業の充実を図る。

<おわりに>

この研究を進めるにあたり，ご協力をいただきました研究協力校の先生方，生徒のみなさんに心からお礼を申し上げます。また，研究協力員として協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

【参考文献】

大野哲郎(2001.8)『新しい読み物資料で新しい道徳授業を創る－生き方を深く考える』，明治図書出版株式会社，148ページ

財団法人コンピュータ教育開発センター(2010.1.31)，『情報モラル指導者研修ハンドブック』，財団法人コンピュータ教育開発センター，33ページ

日本道徳教育学会(2008.7.1)，『道徳教育入門 その授業を中心として』，(株)教育開発研究所，261ページ

向山洋一(2004.5)『T O S S道徳「心の教育」シリーズ13 ネット時代の心の教育』，明治図書出版株式会社140ページ

文部科学省(2008.9.25)，『中学校学習指導要領解説 道徳編』，日本文教出版株式会社，151ページ

安澤順一郎(1992.7)，『中学校道徳 内容項目の研究と実践2 1-(2)希望・勇気，強い意志』，明治図書出版株式会社147ページ

安澤順一郎(1992.10)，『中学校道徳 内容項目の研究と実践8 2-(3)信頼・友情』，明治図書出版株式会社143ページ